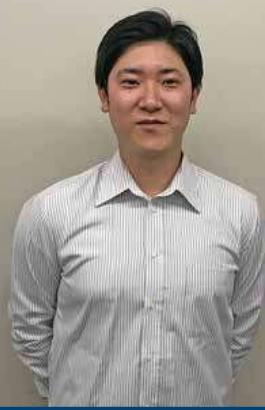


新たな挑戦！

営業ヒストリー

企業が生き残る過程には、多くの困難が立ちはだかります。それは小澤製作所においても例外ではありません。今まさに、小澤製作所が乗り越えようとしている困難への挑戦をご紹介します。



営業部部長代理
兼 第一工事部
マネージャー

にし しん べい
西 真平さん

経営方針の転換

危機から脱するための決断

小澤製作所には営業部という部署はなく、長年お取り引きいただいている企業様から安定的にお仕事をいただいておりました。しかし、2020年からのコロナウイルスの蔓延で、売り上げに大きな影響がありました。従業員や協力会社のためにも、なんとか売り上げを取り戻そうということで、これまでお取り引きいただいている企業以外への営業活動を始めることになりました。

営業活動

始めての挑戦での苦労

小澤製作所には食品や化学プラントに関するノウハウがあります。長年原料から製品になるまでの工程に携わらせていただいた賜物です。このノウハウを必要としてくれる企業で、役立ててもらおうと営業活動を始めたものの、営業活動は苦戦の連続となりました。アポイントをとるために100社以上へ電話をかけ、実際に話しを聞いてくださりアポイントが取れるのは数社という状況で、さらにそこから仕事をいただける企業はほんの僅かでした。

営業の成果

諦めずに続けたことで得られた信頼

とても厳しい営業活動の日々でしたが、それでも諦めずにお客様から言われたことだけでなく、改善提案なども積極的に行いました。コロナウイルスの状況が緩和されると、対面で会ってくださる企業も増え、より小澤製作所の魅力を伝えやすくなりました。小澤製作所の魅力は設計から製作、メンテナンスまで一気通貫でできることです。営業を始めて2年が経つころには、設計要素が必要な仕事の依頼も増え、少しずつ受注金額が上がり、取り引き先との信頼関係も築けるようになりました。

今後の目標

小澤ブランドをより多くの企業へ

現在、この営業活動により小澤製作所の売り上げは順調に復活してきています。そして、この先1~2年内にはピーク時の売り上げに到達したいと考えています。そのため、既存のお客様との関係を維持しつつ、営業にもさらに力を入れていく予定です。小澤製作所をアピールできる人員を増やし、小澤ブランドを広めていきたいと思います。



キーワード「愛」～本・縁・愛～
「地元への愛、そして
愛される会社にするためには」

前号に引き続きキーワード「愛」について、西山さんにお話しをしていただきました。



地域密着型の良いところ

周囲環境を生かせるかは自分次第

地元企業ならではの認知度の高さが大きなメリットだと考えます。全国規模の会社も進出していますが、名古屋の駐車場会社は、地元で十分に戦えるだけの環境に身を置いています。例えば当社においても、自社名を名乗ると「ああ、いすみパーキングさんね」と良い反応が返ってくることが多いです。よく知らない大手企業よりも、よく知っている地元の企業に好感度を抱いてくれる印象があるので、弊社としても非常にありがたいことです。しかし、そこにあぐらをかいてはいけません。仕事に対しても地域に対しても必要最低限の知識をしっかりと備えておき、オーナー様にお話ができる準備を行っておくことが必要だと思います。



地元から愛される会社にするための取り組み

単純に地元が好きだから！

新聞コラムで地元寄りの記事に目を通しておいたり、名古屋が特集されているときの地域特番を録画しておいたりと、共通の話題に挙げられそうなものはチェックするようにしています。ただ、決して義務的に取り組んでいるわけではありません。私自身が地元に関係することに興味があるので、その延長線上で知識を吸収しているといった形です。お客様の方から「あの番組見た？」と話題を振られることもあるので、そこで「見ましたよ！」と即答できる状況を作ておくことが、地元から愛される会社づくりに繋がるのではないかでしょうか。



いすみパーキング
新栄営業所
現場統括マネージャー
にし やまと ゆう ま
西山 雄真さん

BRICKYARD

Recommended

11月に入り寒暖差のある毎日ですが、皆さま元気でお過ごしでしょうか？

Customer's Voice

10月もご新規様、リピーター様や常連様に連日スタジオにお越しいただきました。

また今月は、ライカ本体とレンズのレンタルも長期に渡り契約をいただきました。こちらは、遠方のお客様には契約書を記入していただいた上で、郵送という手段でのレンタルも行っています。購入前に試してみたい、というお客様にも大変好評です。

撮影利用においては、スタジオ内の備品も皆様上手にセッティングされていて、こちらとしても勉強になりました。

今年も残すところ2ヶ月をきりました。

また季節柄、皆さまくれぐれもご自愛ください。



かやま さえ き

文章：BRICKYARD 香山 況季さん